

弘前 & 柳井 その先へ 2025

柳井市白壁の町並みを守る会会長

木阪 泰之

柳井と弘前のご縁は、2019年の
 当会創立40周年講演会から始まりまし
 た。以来、コロナ禍をはさみつつも交
 流は途切れることなく、私自身も今夏
 で4度目の弘前訪問となりました。(最
 多は河本会員!)今回は柳井市長様と
 ご一緒に、念願のねぶた祭り運行に参
 加。「や〜やどお〜」の掛け声と全
 身に響く太鼓、その熱気に包まれるた
 び、いつか柳井でもこの感動を皆で共
 有したいと強く願いました。

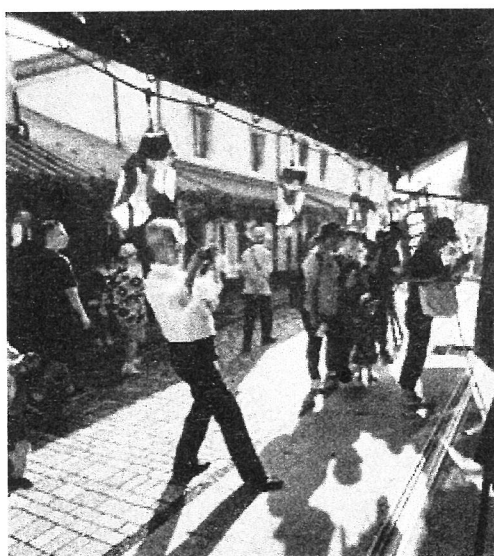
有難いことに今夏は櫻田弘前市長様
 が柳井金魚ちようちん祭りに初めてお

第百四号

柳井市白壁の町並みを
 守る会
 事務局(皿田治)
 Tel. 090-1012-4204

た。

越しくださり、オープニン
 グセレモニーや踊りにもご
 参加いただきました。まさ
 に夢のようなひとときでし



櫻田弘前市長様、お祭り当日に当会のかき氷屋台の様子をパチリ。

来年は柳井金魚ちようちん祭りは第
 35回の記念大会。目指すは「令和の北
 前船プロジェクト2026」、弘前ね
 ぶたと金魚ちようちんが並んで練り歩
 く光景です。

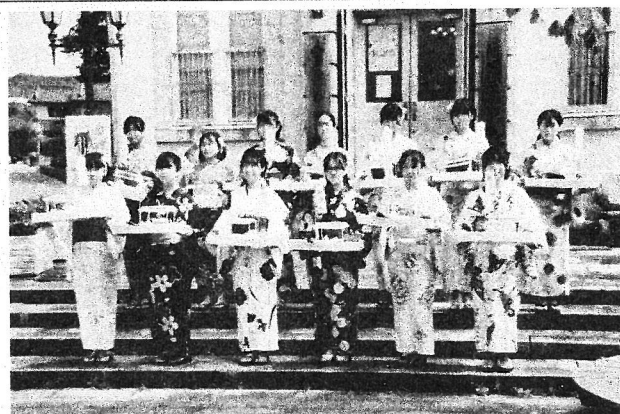
実現には大きな壁もありますが、想
 いを描き、行動すれば道は拓けるはず。
 未来のまちづくり、人づくりへと広が



る交流を信じ、皆様のご理解とご協力
 をお願い申し上げます。

第三十五回八朔の船流し実施

八月二十四日町並み資料館に色鮮やかな浴衣姿の乙女たちが次々と集まって来た。柳井中学の女子生徒十三人。大正時代末期まで古市の豪商佐川醬油店にて続いていた行事を当会で復活して今年で二



十五回目。柳井川に出てみれば。今まさに「潮や叶いぬ。いざ漕ぎ出さん」とゴーサインを出そうとするも過去の記憶がよみがえり、今すこし様子を見ることに。

案の定、潮が反転し「今暫し待て」のサインに変更。その後二度三度と引き潮、満ち潮を繰り返しここぞと云うタイミングでゴーサイン。過去の失敗の経験が生きました。

前回も書いたが今年の中学生にとっては初めてのことで何故柳井の地において船流しが始まったのか由来を記す。

柳井市郷談会元会長中村正樹氏(故人)が平成十二年に作成された資料によるとその起源は鎌倉時代以前に遡るようだ。以下『柳井町勢原簿』より抜粋する。原文は漢字とカタカナであるが読みづらいので漢字とひらがなに変更。

『八朔の船流 八月朔日八朔の船流は大きき一尺四五寸位の家形船を作り色紙などにて紙人形を乗せ団子を積みて女兒の盛装せるが旧曆八月夕刻満潮時に柳井川の下流に浮べるの習風久しく行われ一時は中々盛にして船の飾り人形の着物などに金を惜まず作れる事もありしが近年殆んど其影を止め只家々に団子のみを作る様になれり雛の由緒は文治(後鳥羽一一八五―一一八九)の頃平家西国に漂泊の砌り船を柳井につけたる折しも八朔なりしに船中の公達女など雛遊をなしけるを土地の人々見習いしより始りしなりと伝えらる』

大昔に始まった行事だったとは驚きですね。源平の戦いが瀬戸内で展開されていなかったらこんな行事は始まっていなかったかも知れません。継続は力なり。これから是非続けて行きたいものです。

ボランティアの学生さん、着付けを手伝っていただいた先生やご協力いただいた関係者の皆さん、取材に駆けつけていただいた報道機関の皆さんに心より感謝申し上げます。

白壁の町並み蜘蛛の巣取り大作戦！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「中学生の知恵と行動力で地域の課題を解決する」というテーマのもと、始動したこの企画。興味を持って参加してくれた柳井中学校3年生の5名の男子生徒たちと、6月30日に初顔合わせ、企画趣旨を伝えて課題解決方法は宿題に。7月7日に作戦会議。7月17日に実際に竹を取&加工を経て、8月4日に「蜘蛛の巣取り大作戦」を決行しました。

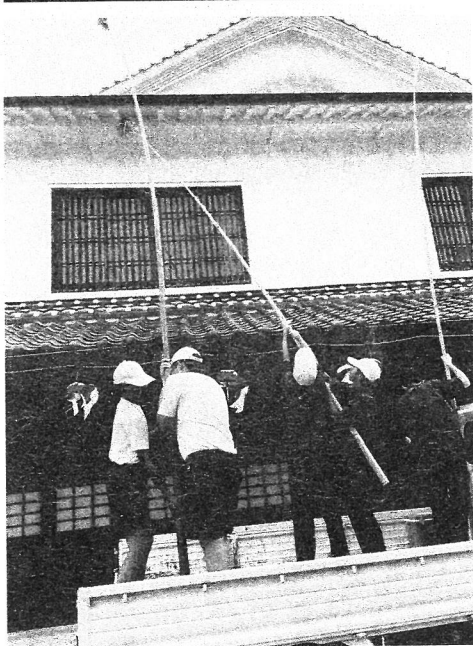
様々なアイデアが出ましたが、試行錯誤して竹を使うことに。中学生たちと竹林に行き、竹を吟味。初め



て電動のこぎりを使う中学生たちの眼差しは真剣そのもの。注意を払いながら切り倒した10mちかい長さの竹を5本持って、中学校まで運びました。持ち帰った竹を剪定して竿先にモップやマコモダケの葉を結束バンドで装着。いざ白壁へ！

蜘蛛の巣で汚れた白壁を前に、俄然やる気の中学生たち。いよいよみんなのチャレンジが始まりました。穂先が蜘蛛の巣に届き、なぞるように竹を動かすとみるみる蜘蛛の巣が取り除かれ、5人から歓声が！

するすると言えば簡単ですが、かなりの重さの竹を自由自在に動かすのは至難の業。最初は操作が難しかったようですが、徐々に慣れて、思う



ように蜘蛛の巣が取れると中学生たちは気持ちよさそう！みるみる綺麗になりました。

7〜8mの竹でも届かない箇所はトラックの荷台に乗って、安全に気を付けて作業し、予定していた町屋7軒の清掃作業はすべて完了しました。



最後まで、大切な町屋の白壁を傷つけないように注意を払って作業してくれた中学生たち。暑い中根気よく頑張ってくれました。白壁が綺麗になっていく様を見てみんながとても喜んでいたので、こちらも大変うれしく思いました。今後も彼らのような中学生たちと白壁を守るお手伝いができますようにと願っています。

柳井の地図絵図

岸田稔明

第四十七回 一万分一柳井町都市計画図

(昭和二十七年調査) その二 (柳井市蔵)

前回から、柳井市都市計画課に保存されている「柳井町都市計画図」を取り上げているが、今回は三角橋付近に焦点を当てて。

三角橋のすぐ近くの柳井川河川公園(おさんぽ公園)内に、洲崎の道しるべがあり、次のように刻まれている。

右 田布施玖珂高森道

左 平生伊保庄上ノ關道

また、側面には「明治三十一戊戌年五月日」、別の側面には「全日 飲料水」などと刻まれている。右(西)に進むと、愛宕町、中野町、緑町を経て東樋の上に至る。左(南)に進むと、伊保庄を経て上関へ通じる。平生へも通じている。

この道しるべは、柳井川河川公園の工事に伴い、一時百



メートル西の住宅地に移されたが、現在はほぼ同じ位置に復元設置されている。

現地へ行くと、道しるべは、姫田川に架かる湊橋(三角橋のすぐ東の姫田川に架かる北浜橋の北側に位置する橋)のある交差点ではなく、交差点から南の三角橋寄りに設置されている。なぜこの不思議な位置にあるのか。

第三十七回において紹介した国土地理院蔵の昭和二(一九二七)年測図「陸地測量部二万五千分一地形図」(右下に一部を掲載)と、今回取り上げた柳井町都市計画図を比べると、湊橋の位置が姫田川の上流へ移動していることが分かる。

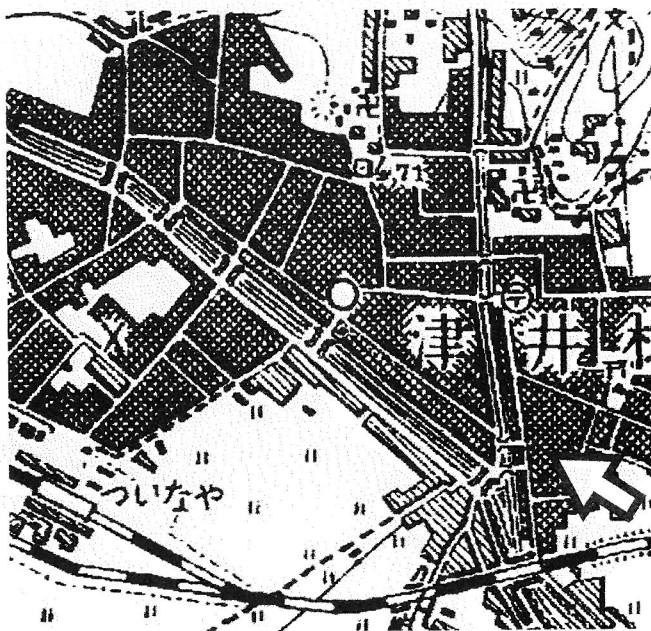
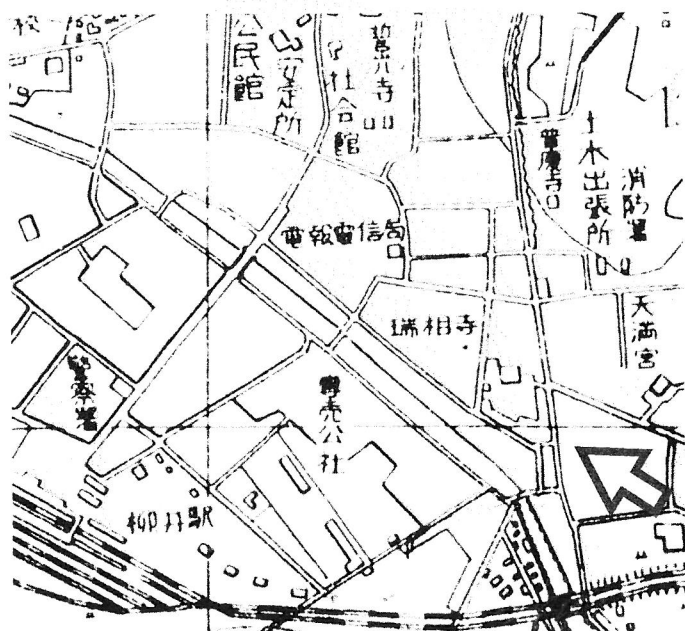
湊橋の位置は、昭和十二(一九三七)年に変更されたことが、当時の柳井町報に掲載されている。

すなわち、明治三十一(一八九八)年の道しるべ設置時には、湊橋が道しるべの目の前にあり、交差点だったが、昭和十二(一九三七)年に湊橋の位置が変わっても、道しるべの位置は変更されなかったのである。



河川改修工事前の道しるべ
平成8(1996)年撮影

【左下：柳井市都市計画図(昭和二十七年一九五二)年現地調査、柳井市蔵)、右下：陸地測量部二万五千分一地形図「柳井」(昭和二(一九二七)年測図、国土地理院蔵)】



商都柳井の歴史その廿八

松島 幸 夫

商人たちの心(十三)

豪商たちの愛郷心

前々回に、柳井津の豪商であった貞末宗故(「きじや」の店主)が元禄2年に大阪の天満宮に参拝した際に、下駄の齒に天神像が挟まり、その像を持ち帰ったことに柳井の天満宮が始まると紹介しました。

また前回には、柳井津の豪商たちが資金を出し合って、天神祭に大名行列を加えた経緯を見ました。

さて今回は、「きじや」に綿々と引き継がれてきた貞末家の商人心得を見ることによつて、柳井津商人たちの愛郷心を探ってみたいと思います。

柳井津では、すでに室町時代から豪商が財をなしていました。天然の良港で船運による交易が盛んなうえに、西国の覇者である大内氏が軍港として利用したからです。江戸時代の初めには、吉川氏が岩国に城下町を造るにあたって、柳井津の豪商たちに



ある吉川広家がある久甫、久保田、岡田、浅海、秋本、坂田、秋本、

白銀の辻」と狂歌を詠んでいます。その狂歌に柳井津から錦見へ強制移住させられた豪商たちの名が並んでいます。したがって、江戸時代の当初には柳井津でトップクラスの豪商が岩国錦見へ去って行き、それに準ずる商人たちが柳井津を再興することになりました。

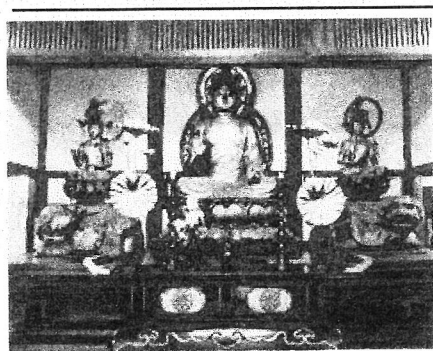
その中に、貞末家もありました。木綿を商う店で、屋号を「生地屋(きじや)」としました。また世間では「布屋」とも呼ばれていたようです。現在では土産物店になつていますが、「きじや」の看板はそのままだと掲げられています。



江戸時代前期には木綿問屋が最も儲かる商売で、柳井津で一番の資産家であつたと言われている。金屋町から久保町へかけて、幾つもの建物を所有していました。江戸時代の庶民は苗字を使つてはならなかつたのですが、

藩に多額の献金をし、町の重要な役職である大年寄(「柳井津町の長」)を務めたことによつて貞末姓を用いることが許されました。庶民の名として新五郎と言いました。武士同格の名として清信と称しました。ちなみに「新五郎」は後に世襲名となり、子どもが立派な経営者になると、その人物は新五郎と呼ばれました。さて初代の新五郎は、「早起きをする」と「懇切丁寧な接客をすること」「時を

守ること」を店員に口酸っぱく説いたと言われている。現在の社是にあたります。簡単ではありますが、現在の柳井津は、ただでなく、町の大年寄として柳井津全体の商人が厳守するように努めました。その結果、柳井津商人の信用は高まり、町全体が繁盛することになりました。と江戸時代に時計はありませぬ。柳井津町全体で時を守るために、瑞相寺の境内に鐘楼を建て、2時間おきに鐘をつかせるした。費用は新五郎が全て負担しました。鐘の音が響くたびに「時は金なり」の意識が高まり、どの店でも寸暇を惜しんで労働に励みました。柳井津全体が繁栄する一助になったのです。



初代の新五郎は、篤い信仰心も合わせ持つており、瑞相寺に釈迦堂を建て、堂内に大きな釈迦三尊像を安置しました。脇に文殊菩薩と普賢菩薩を配して、荘厳な世界を出現させました。新五郎の没後、命日ごとに釈迦三尊像に参拝する人が増え、やがて「新五郎回向」と称される柳井津町の一大行事となりました。またその息子は片野川に私財を投じて千歳橋を架けるなど、幾多の社会奉仕をしていました。ここでは貞末家の例を示しましたが、どの豪商も、郷土のために尽力したのです。商人みんなが奉仕の心をもっていました。

白壁雑感

先日、萩市から来られたお客様とお話しする機会がありました。県内で重要伝統的建造物群保存地区に指定されているのは萩市の4地区と柳井市の白壁の町並みだけです。萩市でも伝建地区を生かして様々な試みをされているのですが、観光客へのアプローチだけでなく、今住んでる人々やこれから担っていくであろう子供たちに、町の歴史や良さをもつと感じてもらいたいとお話しされていました。

近年、白壁の町並みを守る会の様々な行事に沢山の学生さんたちがお手伝いしてくれています。花香遊や天神祭り、金魚ちょうちん祭り、柳井祭りではスタンプとして、八朔の船流しや年末夜回りでは参加者として、盛り上げてくれています。今年は記事でも紹介されたように「白壁の町並み蜘蛛の巣取り作戦」が加わりました。

中学校や高校では将来、地域に貢献してくれる人材の育成をうたっています。

ですが、そんな話をするときに、進学などで町を出た子供たちが思い出の少ない町に戻ることはないという話が出ました。

知識として町の歴史や良さを学ぶだけでなく、いろいろな思い出を町の人や子供たちに積み上げてもらえたらなと思います。

白壁の町並みを守る会の会員も高齢化が進む中、この町に愛着を持っていたいている方の新規参加を募り、思い出を作ってもらったり、子供たちにいろいろな行事に参加してもらって楽しい思い出を沢山作ってもらいたいと思います。

生まれた町、住んでいる町に愛着を持てた方が楽しい生活になるのかなと思います。

それぞれの都合で、できる範囲だけの参加で大丈夫な活動ですので、ご興味を持っていただければ、ぜひ柳井市白壁の町並みを守る会にご参加ください。お待ちしております。

【編集後記】

★八朔の船流しの日程を決める折、どうしたものかと一瞬迷った。8月24日は宝来橋のたもとに建つ愛宕大権現火伏地蔵のお祭りの日。この日は例年地蔵盆の日として全国的に決まっております変更することはできないのだ。一方の八朔の船流しの方も潮満の関係でこの日がベスト。同日実行を決断。早朝、古市有志住民によるお地蔵様の清掃奉仕、祭壇設営を終え直ちに柳井川に直行なんとか船流しに間に合った。

★弘前との交流が始まってから既に5年が経過。当初はどのようなことかと懸念したものだが着実に相互交流が続いている。思えば江戸時代に柳井の一商人が北前船に乗ってはるばる津軽まで商いをしに旅をしたことが金魚ちょうちんの生まれるきっかけになった訳である。商人の町柳井を雄弁に語る歴史的証である。来年金魚ちょうちん祭りは35回目を迎える。祭り当日弘前ねぶたと金魚ねぶたが市内を練り歩くかもしれない計画があるやに聞く。楽しみだ。(事務局 皿田)

令和7年度第2四半期 柳井市町並み資料館入館者数

	令和7年/7月~9月	令和7年9月現在累計
町並み資料館	5,401	347,613
	前年同期比 103.4%	
松島詩子記念館	1,058	119,643
	前年同期比 101.6%	